2019年度を振り返って

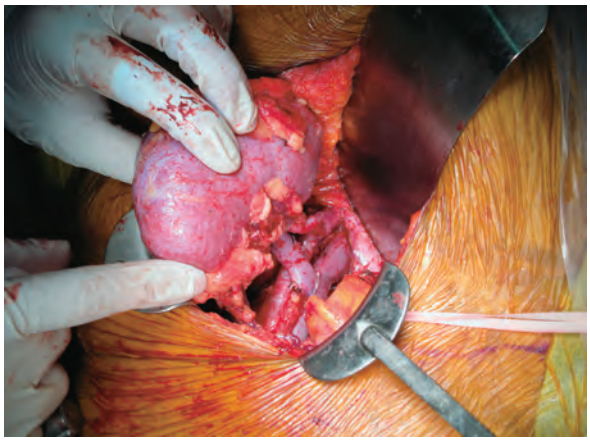
旭川医科大学　外科学講座教育支援機構　一般社団法人AMUSE　代表理事
旭川医科大学　外科学講座　肝胆膵・移植外科学分野　教授
古　川　博　之

会員のみなさまには、新型コロナウイルスの影響で、患者の受け入れに苦慮されたり、マスクやアルコール消毒などの物品不足で悩まれている方など、不安な面持ちで日々を送られている方々も多いと思います。心からお見舞い申し上げます。私も病院長という立場から旭川医科大学病院に万全の体制を敷くべく、旭川で感染第１例目が確認された２月22日時点で、旭川医科大学病院に感染対策会議を招集し、25日には感染病床として９床を確保し、26日には発熱外来をオープンさせました。（１）発熱外来をオープンするために、感染患者の動線を分ける遮蔽壁を設営、また、比較的軽症患者が多い８階東病棟の個室を感染用に準備しました。病棟は最大で５床まで埋まりましたが、幸いほとんどが陰性患者であり、感染創病棟から退室させることができ、２週間後には通常の４床の運営に戻しております。今回最も苦労したのは、通常であれば、誤嚥性肺炎やがん性のリンパ管症等の診断で一般病床への入院させていた人が少しでもコロナ感染を疑われれば感染病棟に入れざるをえないことでした。しかも、感染陰性を確定するためには、PCR検査が必要ですが、保健所の管轄であるため迅速に行うことができず、診断がつくまで感染症病棟に留め置かれることになります。いずれにしてもICU２床、一般病床２床だけで患者を見ていくためには、いかに早く診断をつけ、患者を退出させるかにつきます。そのため、検査部に協力してもらい自前でPCR検査をできるまでになりました。発熱外来は、内科３科だけでなく、外科、小児科、脳神経外科も診療に加わりサポートしてくれています。通常の診療に加え、コロナ感染にも対応していただいた方々には心から感謝を申し上げます。

（１）発熱外来

さて、コロナ感染が１日もはやく終息することを祈る日々ですが、2019年度のAMUSEの活動を簡単にご紹介します。まずは、臨床の話題としては、腎移植のプログラムが松野教授を中心に2019年の９月に始まったことです。（２）すでにこれまで４例が行われ、３例は退院して元気にされています。他の腎移植プログラムとの大きな違いは、多チームによる編成にあります。ドナーの手術は、腎泌尿器科が行い、レシピエント手術は肝胆膵・移植外科、血管外科との混成チームで手術にあたっており、AMUSEならではの取り組みだと思っています。現在は、生体腎移植が中心ですが、将来的には献腎移植も視野にいれております。今年度の快挙は、東信良教授が令和元年度北海道科学技術賞を受賞したことです。大動脈瘤や急性大動脈解離など緊急を要する血管疾患に対し

（２）旭川医大での初回生体腎移植（レシピエント）
左から内田大貴、岩本整、髙橋裕之、古川博之、
木原優、（総監督：松野直徒）



再灌流直後の移植腎

て、クラウド上でCT画像を送受信することで、当院への到着から手術開始までの時間を短縮することできたことに対する受賞です。

HOPES開催も３回目となり９月21日、22日に、北海道大学学術交流会館にて開催されました。AMUSEの支援で旭川医科大学の学生も11名参加し、毎年最も盛り上がりを見せる学生セッションには旭川医科大学からもこれまでで最も多い６名が参加し、心・血管・肺と腹部・小児・乳腺に分かれてプレゼンテーションの技術を競いました。本学６年生の廣上翔君が本学から初めて優勝し、指導者であった紙谷教授から喜びの雄叫びが聞こえました。残りの５名も参加賞を手にし、すばらしい発表に対して賞賛の拍手が送られました。HOPES2019では、１年前の北海道胆振東部地震を教訓とするためシンポジウムが組まれましたが、元東北大学総長、里見進先生の特別講演は、東日本大震災時の東北大学病院の手術中の映像から始まり、復興・復旧のための手さぐりの苦労が偲ばれる心に刻まれる内容でした。

SGRは、これまで６回行われています。2019年４月には、大阪赤十字病院救急部の渡瀬淳一郎先生が中東、アフリカの紛争地位おける戦傷外科の現状をお話しいただき、５月には北海道循環器病院心臓血管外科の津久井宏行先生がピッツバーグ大学での手術経験などを交えて若者に心臓外科医の神髄を伝えてくれました。７月には、大阪急性期総合医療センター外科救急診療科　山川一馬先生が市中病院での臨床研究の可能性についてお話しいただき、８月には、１昨年に引き続き、外科系や麻酔科の女性医師を対象に、大崎麻子先生が女性の活躍とリーダーシップについて講演をいただきました。12月は、鹿児島大学小児外科の家入里志教授をお招きして、小児内視鏡外科手術を中心に人材育成の重要性を話していただき、東京医大医学総合研究所の吉岡祐亮先生は、本学血管外科と共同研究も行っているエクソソームの基礎からがん医療への応用についてご講演いただきました。（３）

開催２年目となるブラックジャックセミナーですが、近隣の中学校から昨年より約10名多い41名が参加し、縫合の練習や腹腔鏡手術操作でのゲーム体験、救急車内でシミュレーターを使った蘇生の体験、手術室の見学など外科の１日体験をしてもらいました。最後は、全員に修了証書が手渡され皆、満足げでした。キッズタウン80にもブースを出して、子供に外科のおもしろさをアピールしており、将来これらの子供たちが外科医として戻って来てくれるのが楽しみです。

これらの活動以外にも、学生を日本外科学会や日本血管外科学会などの全国学会に連れて行き外科への興味をもってもらうための企画や、院内での学生向けにハンズオンセミナーを行っています。さらに７月には、各研修病院が自分たちの病院の研修システムをアピールするレジナビフェアを開催し、その後、ハーベスト・ロードでバーベキュー・パーティーを行い、多くの学生さんに参加していただきました。

最後に、宮本先生が３月をもちまして退官されます。宮本先生におかれましては、旭川医科大学の小児外科の伝統を受け継ぎ、当時たった１人から始められて小児外科を育て上げ、30余年の長きにわたって小児外科の求道者としての活動を続けてこられたことに敬意を表します。３月７日に予定されていた退官祝賀会がコロナ感染のため中止になったことは残念至極です。これからは、満身

（３）2019年度SGR

創痍の体を少し休めていただき、刀を筆に持ち替えて、さらなる活躍を楽しみしております。（４）

会員の皆様におかれましては、いつもAMUSEを応援いただきありがとうございます。今後も皆様の声に答えられるようこれからも精進して参ります。新型コロナ感染の問題があり、日本は大変な時を迎えておりますが、これも教訓ととらえ乗り越えて、そして、これからの医療に生かしていく所存です。AMUSEは、今日も元気です。

（４）宮本和俊先生

－AMUSEをより逞しい組織にするために－

旭川医科大学　外科学講座
血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野　教授
東　信　良

AMUSEの令和元年度は、肝胆膵・移植外科と消化管外科、血管外科、心臓外科に講座教授がおり、さらに、呼吸器・乳腺外科と小児外科にそれぞれ病院教授が存在する盤石の体制で、それぞれが光りを放った一年であったと思います。

そうした中、念願の腎移植がスタートし、移植外科チームと血管外科チームなどAMUSE結束力が力を発揮し、順調に症例を重ねております。また、HOPESでも旭川勢の活躍が光り、学生セッションに収まりきらず一般演題で発表した学生も多く、AMUSE大活躍の年でした。私どもの教室員プラス学生は、ラグビーワールドカップで混み合う札幌に宿が取れず、マイクロバスをチャーターして皆で朝里川温泉に宿泊する「大人の修学旅行」体験までした思い出深い学会参加となりました。AMUSE感謝の会では、AMUSE学術活動表彰があり、ほとんどの分野から活発な論文・学会発表成果が上がっていることも印象的でありました。

AMUSEが設立から丸４年がたとうとしています。私は研修担当理事としてAMUSE入局新人の専門医研修プログラム責任者を務めていると同時に、大学病院の副院長として病院長（古川代表理事）のすぐ近くで仕事をしてまいりました。この間、AMUSEは大変順調に育ち、取り決めもしっかりしたものに毎年進化してきましたが、まだまだ良い組織になると信じて、下記の３点について注力すべきと思っているところでございます。

★外科研修内容の洗練

AMUSE発足以来、AMUSEへの新入社員（新規入局員）は順調に増え、外科全体が若者のエネルギーに溢れていることは大変喜ばしいことです。研修医にとっては、外科の各領域を学内あるいは学外関連施設を巡って研修することで、研修の透明化がもたらされ、指導する側にも大きな刺激となり、研修内容が改善するといった好循環が生まれているように思います。

ただ、そのような効果にそろそろ慣れてきた影響もあり、少し冷静になってみると、研修体制そのものについて、特に、目標を設定し、アウトカム評価を求めているプログラム制の教育制度は、まだまだ定着していないのが現状にように見受けられます。

新しい外科専門医制度では、少なくとも年に２回、指導者が専攻医を面談してインタビューし、指導者側も専攻医側も互いに改善を目指すよう、各診療単位のリーダーの皆様にAMUSE研修の魅

力を再点検する時期にあるように思います。

ここで２つ、この１～２年で素晴らしいと思っている研修の一部を紹介したいと思います。

一つ目は、心臓大血管外科と血管外科の合同M&M（毎週木曜朝）です。症例を通してガイドラインや文献を振り返り、安全管理へのモチベーションが高まり、手術成績向上にもつながり、何より診療内容の透明性が担保され、その専門以外の意見を聞く耳を持つことができるようになると思うからです。そういうカンファレンスを学生や研修医にも見せることができていることは、いずれきっと問題解決能力とリーダーシップに富んだ医師特に外科医が増えてくることにつながると期待しています。

もう一つ紹介したいのはJOINです。ご存知のように、地方中核病院と大学病院をつなぐクラウド型遠隔医療相談ツールです。ここでは、その教育的効果をご紹介したいと思います。緊急患者が地方で発生し、その画像と臨床情報がクラウドサーバーに送られてきて、スマホでチーム皆がそれを見ることができます。あるいは院内で発生した急変などについても、血液検査データなどがチームメンバーのスマホに送られてきます。それに対して、チームメンバーがリーダーに意見を聞き、メンバーなりリーダーが時々刻々と変化する緊急症例の治療方針をスマホにアップするのを研修医はタイムリーにみることができます。これは、トップサージャンの判断そのものを学ぶ、まさに生きた教科書であり、とても勉強になるのではないかと、このクラウド遠隔医療の教育効果にも大変期待しております。今年度、JOINは小児外科に適用拡大しましたが、是非、教育の研修医教育の観点からもJOINに興味を持っていただき、診療科が増えることを待ち望んでおります。

今の時代、若手外科医はそれなりにしっかり教育されていると思います。初期臨床研修制度前までは、カルテを書けない外科医、手術は好きだが、手術記録が書けない、論文書けない、はたまた、確定申告書が書けない（10年ほど前には医局に税務署から確定申告しない医師がいると電話がかかってきました）など、文書作成が苦手な外科医、あるいは手術は好きだが教員としての仕事（委員会や試験監督など）をしないなど、どこかに大きな欠損を有する外科医が多く存在していたように思いますが、それは本人の問題というより若手の頃に受けた教育に問題があった可能性が高いと思われます。

AMUSEにおいては、是非、そうした不憫な外科医ができないよう、いろいろなツールやカンファ、インタビューなどの機会を用いて、AMUSE新入社員には、外科医としての倫理感、医療安全マインド、感染制御のノウハウ、カルテ記載の習慣、そして研究心のいずれも欠落しないよう、皆で育ててゆかなければなりません。

★研究体制の充実

昨年の大きな出来事の一つは、忘年会の前に第１回外科学講座合同研究討議会を開催できたことではないかと思います。AMUSE発足以来、夏のバーベキューだけでなく、研究討議会を行ってお互いの研究の得意分野を紹介しあう機会を設けたいと切望してきたことが、ようやく実りました。特に素晴らしいと思ったのは、当大学で経験の無かったブタでの移植実験をゼロからスタートして、多くの成果を出されていることで、多くのご苦労があったことと思います。移植臓器保護や人工血液など、専門が異なっても学ぶことは多く、お互いの得意な研究手法を知ることはお互いにとって大変大きなメリットとなることと思い、素晴らしい時間でした。惜しむらくは、もっとディープな討議をしたかったのですが、時間が短すぎましたので、2020年度は時間をもう少しとってもらいたいと思います。

臨床で昨年から始まった腎臓移植は、是非我々血管外科でも、臨床研究として、移植後の血管病の変化を長い年月をかけて観察してゆきたいですし、その変化の背景にあると思われるエクソソームプロファイルの変化などにも挑戦していきたいと計画しているところです。AMUSEでなければ

成しえない仕事に発展する大きなプロジェクトになることを夢見ております。

ブタの実験や医学研究特論に学生を巻き込んだ結果、それがきっかけでAMUSEに興味をもった学生も多いことからも、基礎研究の充実は大変重要だと認識しております。研究心を重んじる価値観を我々が共有し、医学生の時からAMUSE研究に関わってもらえれば、研究心旺盛な外科医がさらに増えて、アカデミックにもAMUSEが力を発揮することと確信しております。

★外科医の働き方改革

我々外科医の多くが望んでいる外科医の日常とは、①手術をしたい、手術が上手くなりたい、②手術の無い日はじっくり研究もしたいし、国際学会でも活躍したい、そして、③アルバイトをせずとも生活できる収入が欲しいし、勿論、④プライベートも大事にしたいといったところでしょうか。現状、手術症例はどんどん右肩上がりで、各領域にはそれぞれ手術のエキスパートがいて、手術が上達する環境はある程度整っている反面、どんどん手術が増えていることに対するサポートはないのですから、当然、②や④に歪みが来ていると推察されます。私の首（頸肩腕症候群？）も相当に傷んでいます。研究に没頭できる時間が圧迫され、じっくりと構える余裕は全然ないように思われます。近未来を想像するに、市内の総合病院や地方の中核病院の活動度（緊急対応や困難例への治療）がさらに低下して、大学にそういった難しい症例や緊急症例がさらに送られてくることになるのは想像に難くありません。

一方、働き方改革、労働時間基準の厳格化といった外圧はこれからグッと強くなります。それではどこか①か②を犠牲にするかといっても、外科医にそれはなかなか難しい。AIがいろんな仕事をやってくれるようになるまで、まだかなり年数がかかるでしょうし、やはり人的支援が必須です。「働き方改革」という波が我々のやりたいことや外科医の価値観を大きく損ねるという考え方もありますが、発想を転換してみたら、外圧はチャンスかもしれません。要するに外圧を利用して、人的資源を豊富にし、あるいは自分達の仲間を増やして、交代で休みを取りながら、上記①から④までのすべてを満たすようにする千載一遇のチャンスなのかもしれません。そういった人材を地方

都市で得るのは簡単ではないものの、医学生も大いに動員してお近づきになれば、彼らに外科の魅力を知ってもらえるよい機会になるかもしれません。大学の魅力を高め、魅力を旭川の学生に発信し、若者が旭川という町に残ってくれるように働きかけることもいずれ大きな効果を生むかもしれません。キッズタウンやブラックジャックセミナーが病院機能評価でお褒めをいただいたのは、とても嬉しいことであると思っています。

最後になりますが、今年のアドバンス説明会には史上最高人数の参加者が訪れました。きていただいた学生を大切にするとともに、実習でこれはと思う学生やSGRに足を運んでくれる学生にも声をかけてHOPESや夏のバーベキューで盛り上がりましょう！

今年度の目標

旭川医科大学　外科学講座
消化管外科学分野　教授
角　　泰　雄

旭川医大に着任してようやく１年半が経過しました。この１年半を振り返っての感想と今後の目標について述べたいと思います。

2018年８月に正式に旭川医大に教授として着任した後、その１ヶ月後に当分野は消化管外科学分野として再編されました。着任してまずはじめに感じたこ

とは、この少ない人数でこれだけの数の手術を大きな合併症を起こさずにこなしているという驚きでした。そして、病棟・手術室ならびに麻酔科の協力体制には、目を見張るものがありました。臨床に関して言えば、あまり口を出す必要はなさそうにも感じました。いわゆる標準もしくはそれ以上に近い治療を実践していると思います。また、大学のご厚意による鏡視下手術の周辺機器の充実には、大変感謝しています。今現在、国内で３施設しか正式に導入していない『８K内視鏡』だけではなく、３D内視鏡（４月からは、正式にスコープ４本・タワー４台体制）といった光学機器導入は国内トップレベルであり、またda Vinci surgical systemも昨年11月より最新のXiに変更になっています。これに加えて大腸癌手術では、経肛門的アプローチであるta TMEの導入、さらなる低侵襲を目指したReduced Port Surgeryの導入など、国内の有数施設と肩を並べる内容へと飛躍しています。手術件数も減少傾向にある胃癌も減少するどころか増加し、大腸癌にいたっては前年を大きく上回る179件（前年131件;原発切除のみ）と大幅に増加することができました。これは、スタッフを含めた消化管外科全員の頑張りによるものです。

しかし、情報発信・医療の進歩に対する責務を負っている大学病院としてはまだまだ力不足の感は否めません。特に臨床で最も重要な点のひとつである『自分達がこれまで行ってきた医療が世間と比べてどうなのか？優っているのか？同じなのか？はたまた劣っているのか？』といった基本的な検証がこれまで行われていません。この検証作業が行われないために、次に何をどう進めたらいいかという未来像を描くことが全く出来ていない状況です。これだけの手術件数を持ちながら、ただただ目の前の患者を手術するだけに終わってしまっています。それでは、人間のモチベーションというものは絶対に持続しません。ただ疲弊していくだけです。そのような状況をみて、若者が旭川で外科医（特に消化器外科医）を目指すことがないことは想像に難くありません。やはり、これからの消化器外科を担う若者に『魅力のある未来像』を提示し、それを実践していることを示す必要があります。この旭川医大の消化管外科に入局すれば、『たとえ仕事は超ハードであっても、必ず充実した楽しい外科医生活を送ることができる』と感じさせる必要があります。最先端の医療を行うだけではなく、情報発信を行い国内外に自分達の存在をアピールし旭川以外に仲間を作ることが重要です。旭川以外に仲間をつくることが刺激にもなり、モチベーションを上げていくことにもつながります。まず大学に若手外科医を集め指導し意識を大きく変えていこうと思います。そのため、今後しばらくは関連病院の皆様には不自由を強いることがあるかもしれません。しかし、今ここで未来に向けた様々な先行投資を行わなければ、近い将来、この旭川医大が道東・道北の医療を担っていくことも困難になってくることは明白です。そうならないように医局員一同鋭意努力していく所存ですので、何卒ご協力の程よろしくお願いいたします。

当科の当直の在り方についての私見

旭川医科大学　外科学講座
心臓大血管外科学分野　教授
紙　谷　寛　之

ドイツより帰国し旭川医大に着任してからしばらくは大学病院における通常の当直業務は行っていなかったが、３年前より私も当直を行っている。そもそも症例数が着任前の約100例から300例まで増えたことに加え、経カテーテル的大動脈弁置換術のため通常の開心術の枠が相対的に減少したため、手術日を１日増やしてもらったのだが、開心術の日の当直は心臓外科が行うべきであるという他診療科からの声に加え、土日の枠は血管外科、呼吸器乳腺、小児外科と心臓外科で平等に４等分すべきと決まったため、１月に４週とすると、月に平日12／20回、土日に日直１コマ、当直１コマとすると４／16回心臓外科から日当直を出す必要がある。しかし、救急部所属の先生は第一外科当直は原則的に行わないことに加え、50歳以上の医師の当直免除もあり、心臓外科で当直業務可能なのは８年目の若林先生と３年目のローテート医師の２人のみとなる。その場合、一人当たり月に８回の

当直となり明らかに過重労働となるため、私自身も戦力として投入することで何とか体制を維持している。この原稿を書いている現在は短期契約の先生が２名加わったため、少しはましになると思われるが、若林先生が研究のほうに軸足を置くため、実際は１人プラスのみとなっている。また、４月からも不安定要素が多く、今後も労働環境としてはそう変わらないのではないかと予想している。

さらに、３年目のローテーターに開心術当日の当直を任せるべきではないという他診療科からの声が日増しに強くなってきているのも承知している。執刀した医師が責任を持って術後管理すべきではないか、と。心臓外科の連中は医師としての倫理観についてどう考えているのか、と。よほどの重症例でない限りは手術当日の夜は病棟からのコールに対して電話連絡で事足りる診療科と必ずICUでの集中治療がセットになる心臓外科とを同列に扱うのは個人的には強い違和感を覚えるが、批判は真摯に受け止める必要がある。と言っても、中堅どころの労働環境を悪化させて彼ら彼女らの家庭を台無しにし、バーンアウトさせるのは本意ではないので、今後は私がもっとたくさん当直すべきであると思っている。そもそも、心臓外科で最もたくさん執刀するのは私であるので、執刀医自らが術後管理を行うべきという皆さんのご批判に応じるには、年間最低100日は大学病院に泊まる必要がある。

しかし、世界的にみると、執刀した心臓外科医自らが術後管理を義務付けられているところは日本以外にはない。ドイツでは４施設で勤務したが、ハノーバー医科大学とハイデルベルグ大学ではICUは自科管理であったが、完全に当直医にゆだねる体制となっていた。イエナ大学とデュッセルドルフ大学では基本的には麻酔科管理で、心臓外科からは１人だけ全体の見守り役として当直を出していた。アメリカでの勤務経験はないが、やはりICU管理は心臓外科医ではなく集中治療専門医が行うと伝え聞いている。日本では施設が分散しているため、術者自らが泊まり込みで術後管理を行うことも可能かもしれないが、それでも症例数が年間150を超えてくると週に３回は病院に泊まることになるため、なかなか難しくなってくると思われる。もっとも、当科についての諸批判を考慮すると、そのような超人的な勤務体制が我々心臓外科医に要求されているわけではあるが。

もちろん、すべて自分で管理するのはある意味簡単である。呼吸器の管理、カテコラミンの調整、ボリュームの負荷など、携わる人間が多くなってくると、しっかりと方針について指示を出していても少しずつ自分の理想とはずれてくる。チーム医療を成り立たせようとすれば、粘り強い教育と、他者に対する寛容が必要となる。それは手術そのものにしても同様である。例えば、私が指導的助手を務めるとしても、自分が理想と思う吻合の形態、弁置換の糸掛け、弁形成手技とは微妙に異なってしまうし、そもそも大動脈遮断時間でいうと私が自分で行ったほうが圧倒的に速い。大動脈遮断時間は予後と有意に反比例するので、目の前の患者のことだけを考えれば全例自分で執刀したほうが良いのだろうとは思うが、それでは20年後の心臓外科の未来を担保できないと思うため、患者の不利益にならないぎりぎりのラインで(詭弁ではあるが)教育を行っている。術後管理についても同様であると思う。

自分が考える理想形は当直制ではなくシフト制である。例えば、チームの誰かが１週間連続で夜勤を行えば、そのほかの者は仮に手術が長引いた場合でも執刀医以外は全員帰宅させることができるため、帰宅時間も計画しやすくなり子育てなどとも親和性が良い。また、現在進行中の働き方改革では、５年後までに残業時間を年間960時間まで、すなわち週に20時間まで減らすことが絶対命題となっているが、シフト制であれば十分に達成可能に思える。しかし、そのためにはもうちょっと人員が必要であるし、また、繰り返しになるが、夜勤担当医に対する信頼と寛容が必要となる。さらに、外科医の倫理観に基づき術者自らが泊まり込むべきという他科からの目を意識すると、当院においては達成は困難に思える。

医師のみでなくコメディカルも含め、教授が当直をすることに強い違和感を持つ人も多いようで、実際にそのような意見もよく耳にする。確かに、教授職の機能、象徴的意味を考えると、理想的ではない。しかし、現状では医局員の過重労働

を防止しようとすれば他に方法はないし、また当科をめぐる諸批判に対応しようとすれば、もっと自分で当直をすべきと覚悟している。術後管理に関しても、私が最も経験豊富であるし、また執刀数の観点からもそうなる。皆様においても、そういう私の姿勢を共感はできなくてもご理解は頂けると幸いである。

腎移植を始めるということと私の戒め

旭川医科大学　外科学講座　肝胆膵・移植外科分野
移植医工学治療開発講座　特任教授
松　野　直　徒

初めからAMUSEのプロジェクトとして腎移植をやろうと思っておりました。

これからも連携と準備に時間を割き、奇策に溺れないようにしてすすめます。

私の外科研修は岡山大学消化器外科（当時、第一外科）で始まりました。岡山大学は中四国で初めて腎移植を行ったところです。折田薫三教授以下、定期的に腎移植を行い、週末にはブタで肝移植、ラットで小腸移植をおこなっていました。今や、肺、肝、腎、すい臓と精力的です。2019年９月30日、旭川医科大学初の生体腎移植が、ドナーを腎泌尿器科、レシピエントを血管外科、肝胆膵、移植外科の合同チームで行われました。私の教授就任祝賀会でAMUSEの事業として腎移植を立ち上げたいということを述べてから２年の月日が経ちました。この原稿を書いている時点で３例が済み、４例目のICを控えているところです。　出身校　東京医大は100年以上の歴史の中で、外科同門会は一つでした。名前を東柏会と言います。その中で、東京医大の移植外科の歴史は古く、我が国初の生体肺移植のほかに、私が卒業する時点でおそらく100例以上の腎移植を行っていました。教授はのちに日本移植学会、日本臨床腎移植学会の当番会長になった小崎正己名誉教授。また、救急医療にも力を入れていることもあり（年間３次救救急相当が2000人ほど来る）東京医大八王子医療センターでは、いまでも臓器提供数はトップクラスでしょう。そういう環境の中、自分は東京医大初の生体肝移植を京都大学の支援で立ち上げましたが、当時のスタッフは、全員、京都大学か海外、特にUCLAで臨床肝移植を経験していました。今回は、私自身が他大学出身の上に腎移植を見たこともないひととの準備には大変疲れました（笑）。そのような中、古川教授をはじめ東教授、角教授、紙谷教授、血管外科古屋、内田先生そして横尾、今井、萩原、髙橋先生の肝胆膵・移植外科スタッフと斎藤先生。この歴史の扉をともに開いたことに感謝するとともに誇りに思っています。波及効果として、腎臓内科専門医、麻酔科専門医、透析学会専門医の取得にも少しはお役に立てるかと思います。

このようにプログラムを立ち上げましたが私の戒めは過去の私です。東京医大時代で最も忙しかったときは毎月１～２例の成人生体肝移植、再手術、月２例の生体腎移植、毎週の肝切除、イレウス、腹膜炎、死体腎移植の緊急手術。今思えば発狂しそうな忙しさでしたがある意味躍動感のある日々でした。入局者も増えました。生体肝移植手術症例数の伸びは、他の大学でも驚異の的で東大の幕内雅敏外科教授から直接電話がかかってきて、君のCVを送ってくれと言われました。しかし、私の躍動感はいずれ、後輩たちを苦しめるようになりました。

合併症が多かったうえに、手術指導に来ていただいた京都大学の田中教授からの指示でダブルスタンダードができあがり、内部告発者が現れ、生存率65％の成績をマスコミへ流し（手術時間、出血量、術後合併症。。。。）自宅に読売新聞、外来に朝日新聞と来ました。後輩たちは疲弊し、いろいろなことで組織が崩壊しました。52例の成人生体肝移植患者を行いましたが不思議と家族からの訴訟はありませんでした。今でも東京で診察もしています。一方では国内400例を超える自験例の腎移植でも、私は死亡例を経験しています。急性心不全、重症肺炎、汎発性腹膜炎、脳出血。救いを求める患者さんにはできるだけ努力してその夢をかなえたいと思います。好きな旭川の地で、地域医療に貢献する移植医療を展開することは、呼んでいただいた古川教授へのせめてもの恩返しになるかと思っています。勉強しなおします。そして気を引き締め粛々と進めていきます。

外科医の礎

旭川医科大学病院　教授
呼吸器外科　科長
乳腺外科　科長
呼吸器センター　副センター長
乳腺疾患センター　センター長
北　田　正　博

こんにちは　研修医の皆さんは毎日糸縛りやっていますか。

呼吸器、乳腺外科チームは相変わらず少ない人数で回しており、仕事はローテーションの先生のおかげで成り立っているような感もあります。昨年度回って頂いた先生、ありがとうございました。感謝申し上げます。来年度は、初期研修医の外科２か月必修制度がやっと復活したことや、アメリカ留学している吉田奈七が帰ってくる予定なので何とかなるかな～と思っています。更に２年間で４人（２人は本年卒業）の同志を迎えましたし、２～３年後は、グループの大学院のサイクルが確立しそうで、ちょっと楽しみでもあります。また、最近はロボット支援肺葉切除術も始めました（この話、うまく軌道に乗りましたら来年ご報告いたします）。

さて、これを読んでいる皆様は外科医でありますので、手術を生業にしてきた、していく所存である方々と思います。しかし、現実問題として、その他の業務もこなしていかねばならない外科医も少なくありません。我々の場合は、呼吸器外科は呼吸器内科の先生とのチームであり、手術、周術期管理に専念できる恵まれた環境でありますが、乳がんに関しては、固形癌を扱う腫瘍内科医が不在なので、薬物療法を自前で行うという作業があります。特に再発乳癌に対する抗がん治療の考え方や、付随する臨床研究の登録などは興味深いのですが、月、水、金の外来は、スタッフだけではなくローテーションの先生、有能な外来スタッフ無しにはとても終わりません。関連病院やかかりつけ病院の充足に尽力しなければならないとも思っております。

乳がんの薬物療法は、stageのみならず悪性度とbiologyに基づいたサブタイプ分類により決定します。中でも、補助療法に抗がん剤が必須になるタイプは術前治療→手術の流れになる事が多く、手術症例の20％は術前治療を行っております。最近は、術前薬物療法→放射線照射→手術を行い、PCRになる症例に存在している遺伝子を確立させる臨床研究（将来的に手術不要タイプを確立させる）も動いております。また、抗癌剤、ホルモン療法の他、多くの分子標的治療が開発されています。Triple Negative Type症例に対する免疫チェックポイント阻害剤や遺伝性乳癌再発例に対するPARP阻害剤、リスク低減手術、臓器横断的な遺伝子パネル検査も保険適応になりました。多くの治療法が認可されるなかで、再発治療の１st line～３rd lineの内容決定に迷うこともあります。そこで、ガイドラインや有名人の先生が行脚講演する薬剤会社の研究会などを参考にするのですが、中にはOSを出すには期間不足のためPFSや奏効率で有意性をアピールしているものも少なくありません。私自身、いつも心に留めているのは、自分の目でも確かめるということです。使用後の奏功状態は？奏功するタイプは？有害事象はどうか？使用価値はあるのか？確かめるためには、常に注意深く観察する作業が重要となります。

注意深く観察という点では手術も同じです。外科医を続けていく以上、年を取れば必ず外科医の長になります。先輩の手術（後輩の手術も）を、自分の目で直接見る事は、技量を上げる上で重要と考えています。直接見なければわからない事もあるわけで、手術メンバーでなければ、外から見るだけでも良いと思います。それが、自分が外科の長になったとき、すなわちすべての責任を自分が持つ立場になった時、良くも（悪くも）必ず助けになるはずです。どうか青年外科医の皆さま、日頃の業務等お忙しいとは思いますし、手術以外にやるべき事も多々あるとは思いますが、可能な限り手術を見る事、そして毎日の糸縛り、これが外科医の礎になると考え、有意義な日々をお過ごしいただけたらと思います。

本年も、ご迷惑おかけすることがあるとは思いますが、ご指導賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

教授（病院）退任にあたり

旭川医科大学病院　教授
小児外科　科長
宮　本　和　俊

さて私こと、このたび2020年３月31日をもちまして定年退職させていただくこととなりました。在職中は様々な方に大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

思い起こせば、1983年に旭川医科大学医学部５期生として卒業して以来、２年間の国内留学の時期を除き、35年もの間、旭川医科大学に在籍したことになります。略歴を示します。

昭和58年３月　旭川医科大学医学部　卒業（５期生）
昭和58年６月　旭川医科大学病院　医員（研修医）
昭和62年10月　順天堂大学　小児外科学講座　助手
平成１年10月　旭川医科大学病院　医員（小児外科専任）
平成５年４月　旭川医科大学病院　助手（小児外科専任）
平成17年１月　旭川医科大学病院　病棟医長、助教、学内講師
平成21年５月　旭川医科大学医学部　病棟医長　講師
平成22年９月　旭川医科大学医学部　小児外科科長　講師
平成29年９月　旭川医科大学　外科学講座　小児外科科長　教授（病院）
令和２年３月31日　退職

ご覧になっておわかりのように、第一外科４代の教授にご指導を賜りました。そして医員・助手の期間が26年におよんでいます。

私は旭川医科大学第一外科講座初代教授で、学生時代からの部活の顧問でもあられた鮫島夏樹先生の薫陶をうけ小児外科を目指しました。第一外科ではすでに１期生の大島宏之先生が小児外科を専攻されていました。二人で小児外科の道を創るべく、鮫島教授の御推薦で宮本は順天堂大学小児外科学講座で助手として２年間修行をしてきました。東京から帰るとすぐに大島先生は地元名古屋に戻られ、鮫島教授も退官され、平成元年から一人での小児外科となってしまいました。外科全体のスタッフ枠の中で、経済的には小児外科の立ち位置はほとんどなく、一人あるいは二人の体制で道北道東にたった１箇所しかない小児外科施設として１日24時間、一年365日と刻むように35年間勤めてまいりました。「小児外科の入り口は外科だが、出口は小児科だよ」と諭していただいた第１外科２代目教授久保良彦先生お言葉のように、小児科・産科・麻酔科、そしてなんと言っても患者さんとその家族に支えられ、ここまで続けてくることができました。４年前から３人体制となり、２年前からは４人体制となり、今までどうしても手の届かなかった研究も充実し、論文の数も急上昇しています。また、旭川医科大学小児外科のスタッフ枠は少ないとしても後進の育成は重要と考え、30年間に22名の卒業生を全国に小児外科医として送り出してきました。そのうち11名が現在も小児外科医として全国で活躍中です。

自分が責任を持つようになった平成元年から現在までに、4500例以上の赤ちゃん・子供の手術の執刀、指導助手を行ってきました。その中には助けることのできなかった子ども達も少なからずいるのですが、現在まで一件の訴訟もなく手術を続けることができ、有り難く思っています。自分が手術した子供達の中からもう４人の医者（内科・外科・小児科・地域医療医）が育っています。残念ながら小児外科医になった子どもはいませんが…また看護師、検査技師、薬剤師、作業療法士など医療関係者となった子ども達も多くいます。親子２代に亘って手術した家族は４組あり、一家系で３人以上手術した家族も多くあります。手術したこども達は今では続々と20歳を超えるようになり、今後の結婚ラッシュが楽しみですが、妊娠出産となると、小児外科医としては不妊・妊娠による原病悪化・イレウスの出現など心配も増えてくる事に気がつきました。

旭川発の新しい手術法の発信も行ってきまし

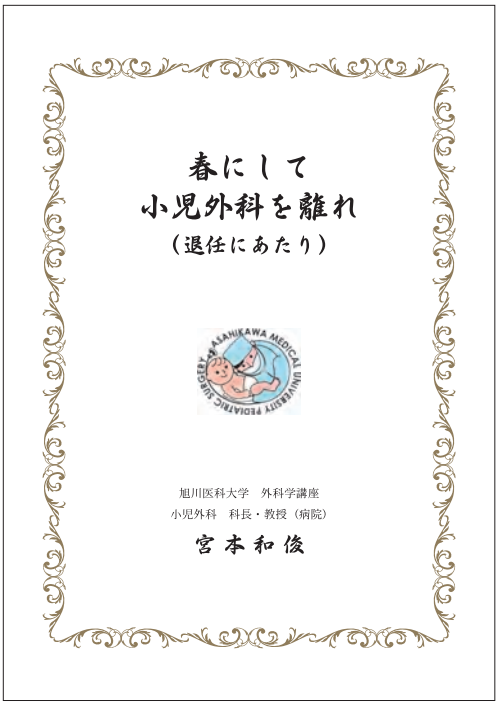
た。開腹手術時代に最も一般的であったHirschsprung病に対するDuhamel-Ikeda法は、鏡視下で行うことは不可能とされていましたが、肛門からループ状に腸を引き出すという発想の転換で鏡視下手術を可能にしました。また障害児に対する手術は1999年頃から全国に先駆けて行い、特にGERDに対する噴門形成術と難治性誤嚥に対する喉頭気管分離術は全国有数の症例数と成績を示しています。さらに、小児における臍部人工肛門造設法は、閉鎖後の整容性の良いことから、小児科・介護者の評判が高く、瞬く間に全国に広まりました。

また、いくつかの研究会や学会を主催させていただきました。列挙しますと
第18回日本小児外科QOL研究会　会長
第27回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会
会長
2007年Pediatric Surgery Joint Meeting
代表世話人
第79回・80回・89回・90回・99回・100回
日本小児外科学会北海道地方会　会長
第23回日本小児ストーマ・排泄管理研究会　会長
第28回北海道ストーマリハビリテーション研究会
世話人会長
これらの学会で、微力ではありますが旭川医科大学小児外科の名を全国に知らしめることができたのでは、と思っています。

実は在職中に書き上げた論文は50編ほどしかなく、講演も13回ほどしかございません。しかしその様な中で、一昨年一年をかけ旭川医科大学小児外科４人の総力を挙げ「北海道における小児外科の黎明と発展」という本の編集を担当し出版にこぎ着けたことは大きな喜びでした。また、まったく私事ではあるのですが、エッセー集「たたかうきみのうた」と「たたかうきみのうたⅡ」を幻冬舎から発行・発売していただきました。手術した子ども達・手術・小児外科医・家族などに対するつれづれの思いを書いたのですが、これらの本は思わぬ反響を呼び、２冊とも文庫化もされました。分厚いクリヤーファイル３冊にもおよぶ、様々な方からの読後のお手紙に日々癒されています。

以上とりとめもない記事の羅列とはなりましたが、37年の人生を振り返ると、旭川医科大学にすべての面でお世話になり支えられてきたと、心より感謝しております。宮本はここで退任となりますが、AMUSEの皆様におかれましては、後任である小児外科科長・講師　平澤雅敏、病棟医長・学内講師　宮城久之、医員･大学院　石井大介に、今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう御願い申し上げる次第です。

最後になりましたが、AMUSE会員の皆様のさらなるご活躍とご健康をお祈りし、筆を置きます。



宮本教授　退任記念誌

鮫島夏樹名誉会員　追悼文

去る令和元年12月30日、AMUSE名誉会員の鮫島夏樹名誉教授が天寿を全うされた。95才であった。

鮫島夏樹先生は、当大学発足とともに誕生した第一外科の初代教授であり、現在の外科学講座血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野ならびに心臓大血管外科学分野の創始者である。代々立派な学者の家系で、北大卒業後、北大第二外科に入局されて研鑽を積まれていたが、旭川医科大学創立が決まり、その初代教授の一人に抜擢され、旭川でゼロからのスタートをきった大先生である。以来、長年にわたって旭川医科大学および外科教室のために心血を注がれ、病院長兼副学長をお務めされて退官された。

退官後も、医学史を通じて学問の在り方、外科医育成の在り方などの研究をされ、晩年までフランス語で書かれた医学書を翻訳して出版されるなど頭脳明晰であった。2012年にはその数多くの蔵書を当大学の図書館に寄贈され、鮫島文庫という特別な部屋に陳列されている。

私が良く覚えているのは、退官後、いつも、「今の政府は学問に必要なお金を減らしている。運営交付金を削るとは何事か！」「大学を法人化するなどもってのほか！」と教育は国家100年の計であるのに、この国はそれを忘れて亡国へまっしぐらであるといったことを毎度、声を荒げて弁をふるわれていたのに、何かその怒り方に愛嬌があって、聴衆たる我々同門からいつも笑いを誘ってご満悦であったのが印象的であった。そんなあるとき、忘年会であったか、それとも叙勲のお祝いの席であったかのご挨拶の際、次のようなことをおっしゃられた。「普通の会社員の世界では、先輩が後輩を厳しく指導し育ててゆく。看護の世界も統率がしっかりしていて、外れたことをすると厳しく叱られる。しかし、医師の世界は医師個人の考え方、独創性などを重んじ、卒後数年もすれば先輩から逐一叱られることはなくなる。だから、医師というのはいかに自分を自分で律することができるかどうかが問われるんだ」と。なぜ、そのようなお話しをされたのか、当時の私にとっては見当もつかないが、なぜかこのことは鮮明に覚えている。今となっては、遅きに失したものの、旭川医科大学の校訓にでもすべきではないかと思うほどである。

先生がゼロからスタートして、時は流れ、旧第一外科は久保先生、そして笹嶋先生へと引き継がれ、そして私と紙谷先生がその後を継ぎ、外科の垣根は取り外され、AMUSEが誕生した。そのAMUSE発足直前の旧第一外科最後の忘年会に奇跡的にその５名が一同に会した！（その奇跡の写真に全く笑顔が無いのはちょっと残念ではある）。ここまで大きく育った旭川医科大学外科学講座とそこで立派に育った多くの外科医をみて、そして今AMUSEとして大いに発展している成果を天からみて、辛口の先生も喜んでいるに違いない。

葬儀は１月３日に執り行われ、旧第一外科同門の先生方や北海道大学第二外科の同門の方々などが駆けつけ、長年供にご苦労されてきた久保良彦元学長先生の興味深い昔話し「ニセコ骨折事件」を交えた弔辞を拝聴し、昔話に花を咲かせた。

立派な外科学講座の基礎を築いていただいたことに深く深く敬意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

東　　信　良

平成26年度　旭川医科大学
第一外科学教室・同門会　大忘年会
平成26年12月20日　於：旭川グランドホテル

2019年度　AMUSE運営体制

事務局　旭川医科大学　〒078-8510　旭川市緑が丘東２条１丁目１番１号
電話番号　0166-66-2424　FAX番号　0166-66-2425
メールアドレス　asahikawa.amuse.1@gmail.com

代表理事　古　川　博　之
理　　事　東　　信　良
理　　事　紙　谷　寛　之
理　　事　角　　泰　雄
理　　事　北　田　正　博
理　　事　宮　本　和　俊
理　　事　松　野　直　徒
理　　事　稲　葉　　聡（遠軽厚生病院　院長）　2019年４月21日就任
理　　事　内　田　　恒（札幌厚生病院　心臓血管外科　主任部長）
監　　事　新　居　利　英（深川市立病院　副院長）
監　　事　平　澤　雅　敏

幹　　事　長谷川公治・今井　浩二・内田　大貴・庄中　達也・菊地　信介・石橋　　佳
　　宮城　久之
秘　　書　米谷さとえ・斉藤　和恵
※赤字は2019年度就任

AMUSE法人会員

法人会員施設　　39施設（2018年度　38施設）　※入会順に記載
JA北海道厚生連　旭川厚生病院／JA北海道厚生連　遠軽厚生病院／JA北海道厚生連　札幌厚生病院／JA北海道厚生連　美深厚生病院／医療法人　中島病院／医療法人　唐沢病院／医療法人ひまわり会　札樽病院／医療法人回生会　大西病院／医療法人健康会　くにもと病院／医療法人社団　ふらの西病院／医療法人社団幾晃会　木原循環器科内科医院／医療法人社団元生会　森山病院／医療法人社団康幸会　かわぐち心臓呼吸器病院／医療法人社団慈成会　東旭川病院／医療法人社団進和会　旭川リハビリテーション病院／医療法人仁友会　北彩都病院／医療法人徳洲会　札幌徳洲会病院／医療法人徳洲会　帯広徳洲会病院／公益財団法人北海道対がん協会　旭川がん検診センター／公立芽室病院／国民健康保険町立和寒病院／国立病院機構　旭川医療センター／国立病院機構　帯広病院／社会医療法人　製鉄記念室蘭病院／社会医療法人孝仁会／社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院／小林病院／上富良野町立病院／深川市立病院／天塩町立国民健康保険病院／八雲総合病院／比布町立ぴっぷクリニック／美瑛町立病院／名寄市立総合病院／留萌市立病院／医療法人双葉会　旭川脳神経外科循環器内科病院／医療法人札幌ハートセンター　札幌心臓血管クリニック／社会医療法人禎心会　札幌禎心会病院／医療法人社団慶友会　吉田病院

賛助会員施設　　４施設（2018年度　４施設）　※入会順に記載
医療法人社団真佑会　旭川消化器肛門クリニック／医療法人　治恵会　北見中央病院／医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院／医療法人社団翔嶺館　音更宏明館病院

合　　計　　43施設（2018年度　42施設）

※赤字は2019年度加入

AMUSE個人会員

名誉会員　　２名
正会員　　140名（2019年度　新入会会員　11名）
賛助会員　　２名
合　　計　　144名

（2020年２月現在）

2018年度　収支決算書

収入の部

（単位：円）

科　目	予算額①	決算額②	増減②－①	摘　要		
1．会費	30,130,000	30,490,000	360,000			
				法人正会員	37施設	22,200,000
				法人賛助会員	4 施設	400,000
				正会員（会費10,000／月）	61名	7,230,000
				〃　（会費10,000／年）	56名	560,000
				過年度分会費		100,000
2．負担金	2,200,000	2,391,000	191,000	参加費（総会、BBQ大会、忘年会）		
3．寄付金	0	0	0			
4．雑収入	840,000	953,118	113,118	ご祝儀、預金利子		
5．前年度繰越金	8,360,880	8,360,880	0			
合　計	41,530,880	42,194,998	664,118			

支出の部

事業費目	予算額①	決算額②	増減　①－②	摘　要
1．事業費	20,200,000	17,896,722	2,303,278	
若手外科医リクルート事業	5,000,000	4,251,074	748,926	学生勧誘、合同医局説明会、アドバンス実習説明会、ハンズオン、ウエットラボ親睦会、BBQ大会、学生学会等参加旅費、学生旅費
学会・研修関連費	100,000	371,000	△271,000	研究会等の諸会費、指導医講習会参加費助成
広報事業費	1,500,000	1,483,080	16,920	ホームページ維持管理費、AMUSE会報誌発刊
学術交流活性化	4,000,000	3,453,730	546,270	SGR招待演者謝金、接待交際費
学会発表支援	5,000,000	5,685,019	△685,019	学会参加旅費助成、英語論文校正、論文投稿助成費用等
キャリア形成、貸付事業	1,000,000	0	1,000,000	初期臨床研修医への貸付（スタート支援）、留学費用支援等
AMUSE教育セミナー	500,000	0	500,000	セミナー開催費用
法人主導型リクルートイベント事業	200,000	173,030	26,970	リクルートイベント開催費用
会員福利厚生事業	200,000	124,560	75,440	会員慶弔（結婚・出産・弔事等）
地域社会貢献事業	300,000	156,342	143,658	市民公開講座の開催、キッズセミナー、TAKEABI
社員親睦関連費用	2,400,000	2,198,887	201,113	医局対抗野球参加費、忘年会
2．補助費	7,600,000	5,965,275	1,241,431	
主催学会開催準備	3,000,000	2,900,000	100,000	主催学会資金助成
医局運営費	1,500,000	953,234	546,766	医局用お茶、飲み物、菓子、食品、洗剤等、その他消耗品、雑費
非常勤講師・医師謝金等	2,500,000	2,106,706		大学非常勤講師・病院非常勤医師への報酬、交通費・宿泊費等
キャリア形成支援	600,000	5,335	594,665	AMUSE表彰プログラム
3．会議費	1,150,000	757,820	392,180	
AMUSE総会・新人歓迎会	1,000,000	711,000	289,000	
AMUSE会議費	150,000	46,820	103,180	理事会会場費、交通費
4．事務費	4,450,000	4,894,307	△444,307	
(1) 事務局費	3,150,000	3,529,543	△379,543	
業務委託費	850,000	831,276	18,724	行政書士、税理士、リコーリース会費回収手数料
事務員給与他	1,250,000	1,601,308	△351,308	事務員給料、交通費、雇用保険料
賃貸料	320,000	333,639	△13,639	事務所賃貸料、プリンターリース料
印刷・消耗品費	200,000	305,745	△105,745	事務局印刷代、事務消耗品
通信運搬費	250,000	283,132	△33,132	電話料、郵便料他
OA機材購入整備費	50,000	31,275	18,725	ソフト購入等
光熱水費	30,000	24,570	5,430	事務所使用分
備品購入費	50,000	0	50,000	
雑費	150,000	118,598	31,402	振込手数料他
(2) 交際費	1,300,000	1,364,764	△64,764	開院・就任等の祝儀、祝花　各会協賛金等
5．交際交通費	1,000,000	379,490	620,510	学生勧誘接待、外部講師タクシー代
6．租税公課	100,000	80,000	20,000	道市民法人税均等割
7．予備費	1,000,000	0	1,000,000	
合　計	35,500,000	29,973,614	5,133,092	

次年度繰越金　12,221,384　（《収入の部》42,194,998－《支出の部》29,973,614）

2019年度　AMUSE事業報告

AMUSE（Asahikawa Medical University Surgical Educational Support Organization）は北海道、特に道東・道北を中心とした地域の外科医療の安定と発展のために設立された組織です。

具体的な活動として

・学生・研修医のリクルーティング活動
・若手外科医の活躍の場（論文・学会発表など）への援助
・外部講師を招いての高度・先進医療の習得
・関連病院との交流を図るイベントの開催
・地域への外科対象疾患の啓蒙活動、子どもたちへの啓蒙活動

を行っています。

①SGR（Surgical Ground Rounds）

国内はもとより海外からも著明な講師を招聘し、地方では学ぶ機会の少ない、高度外科医療、先端外科医療を紹介していただきます。今年度は６回行われました。

②ウェットラボ・ドライラボ／ハンズオンセミナー

医学生へ外科の基本手技・腹腔鏡や人工血管置換などの手技を経験してもらい、外科へ興味がもてるよう活動しています。今年度は６回行われました。

③ブラックジャックセミナー・キッズタウン

ブラックジャックセミナーやキッズタウンなどの、子供たちへの外科医療の啓蒙活動を行っています。昨年度、反響の大きかったブラックジャックセミナーを今年度もジョンソン・エンド・ジョンソンと共同で開催しました。今年度は旭川市の校長会や旭川厚生病院と協力し旭川市内のすべての中学２年生に本セミナーの受講機会が与えられました。この様子は今年も北海道新聞で取り上げていただきました。このような事業は一般社団法人としての社会貢献活動の一環と捉えており、今後もこの活動は継続していく予定です。

この他にも、もはや恒例となってきているレジナビ・バーベキューなどの外科医リクルーティング活動や学園祭の医学展展示への協力、市民公開講座の後援など、AMUSEの活動は病院内にとどまらず、地域社会に向けたものに広がってきております。このような活動はAMUSEのFacebookや昨年度開設いたしましたAMUSEホームページで適宜更新しておりますので、是非とも御覧ください。

2019年度　AMUSE事業一覧

AMUSE事業計画に則り、下記事業を遂行できましたのでここでご報告させていただきます。

日　付	事　業　内　容	開催場所	備　　考
４月10日	ドイツより　榊暁夫先生　特別講演会 「ドイツにおける外科研修とドイツから学ぶ・日本の外科医における働き方改革」	旭川医大　臨床第三講義室	血管外科
４月22日	第22回SGR　渡瀬淳一郎先生 「赤十字による国際医療支援の実際～中東、アフリカの紛争地における戦傷外科の現状～」	旭川医大　臨床第三講義室	消化管外科
４月25日	ハンズオンセミナー（外科基本手技）	旭川医大　小講堂	肝胆膵・移植外科／消化管外科
５月15日	第23回SGR　津久井宏行先生 「令和時代の心臓血管外科」	旭川医大　臨床第三講義室	心臓外科
５月19日	2019年度AMUSE総会・新人歓迎会	アートホテル旭川	
５月30日	ハンズオンセミナー（縫合）	旭川医大　小講堂	肝胆膵・移植外科／消化管外科
６月19日	ドライラボ（カテーテル治療体験）	旭川医大病院血管造影室	血管外科
６月24日	合同医局説明会・懇親会	旭川医大小講堂／ 懇親会　貴あじ	
６月27日	ハンズオンセミナー （腸管吻合＆腹腔鏡下吻合）		
６月29日	第115回日本臨床外科学会北海道支部総会 開催支援	旭川市大雪クリスタルホール	森山病院　稲葉雅史先生
７月１日	第24回SGR　山川一馬先生 「市中病院発！『チームで行う臨床研究』～現場の臨床疑問を形にする秘技～」	旭川医大　臨床第三講義室	移植医工学
７月７日	レジナビフェア＆BBQ大会	旭川医大　第三臨床講義室／ ハーベストロードハウス	
８月19日	第25回SGR　大崎麻子先生 「女性活躍推進のジレンマ～学びと実践～」	旭川医大　第三臨床講義室	肝胆膵・移植外科
８月31日	市民公開講座　乳がん最新治療セミナー	旭川市障害者福祉センター 「おぴった」	乳腺外科
９月７日	第19回血管アカデミー　開催支援		
９月 21日～22日	HOPES2019	北海道大学学術交流会館	
11月２日	ブラックジャックセミナー	旭川医大病院　緑が丘テラス	
11月９日	日本ヘルニア学会北海道支部総会 「通称　ヘルニアを学ぶ会」	北彩都病院	
11月23日	キッズタウン2019　開催支援	旭川市ときわ市民ホール	心臓外科
12月12日	第26回SGR　家入里志先生 「20年後の君へ～患児の将来のための小児内視鏡外科手術と西南の地での“人材育成型”人材育成」	旭川医大臨床第三講義室	小児外科
12月21日	第１回外科学講座合同研究討議会 AMUSE感謝の会	旭川医大臨床第一講義室／ 感謝の会　アートホテル旭川	
１月17日	ウェットラボ（大動脈吻合）	旭川医大小講堂	心臓外科
１月29日	アドバンス実習説明会	旭川医大小講堂／ 懇親会　海の幸　山の幸 たいせつの空	
２月６日	第27回SGR　吉岡祐亮先生 「血液中『分泌型micro RNA』のバイオマーカーとしての意義　－血液１滴から診断される癌の境地とは－」	旭川医大　臨床第三講義室	血管外科

AMUSE2019年度を振り返って

2019年５月19日　AMUSE総会･新人歓迎会

2019年６月24日　合同医局説明会

2019年７月７日　レジナビフェア

2019年７月７日　BBQ大会

2019年11月２日　ブラックジャックセミナー

2019年11月23日　あさひかわキッズタウン

2019年12月21日　AMUSE感謝の会

2020年１月29日　アドバンス説明会

2019年度　ウェットラボ・ドライラボ／ハンズオンセミナー

2019年度　メディア掲載一覧

AMUSEは外科医育成が主たる目的ですが、その活動の幅を広げ「外科医療」というAMUSEならではの視点で地域貢献活動、子ども達への啓蒙活動を行っています。

旭川医科大学が運営する「オープンインターネットカレッジ」は北海道民を主な対象として医療・健康情報をインターネット接続がされているパソコンを使って「家庭の医学講座」を受講することができるものです。消化管外科学分野角教授が出演し大腸癌についてわかりやすく解説しました。健康や医療に関心のある道市民の皆様にパソコンさえあれば、いつでもどこでもわかりやすく疾病や医療について知っていただく機会を頂きました。

またAMUSE設立より丸３年が経ち北海道新聞に取り上げられました。まだ設立間もない法人にもかかわらず、北海道新聞に度々 AMUSEの活動が掲載されておりAMUSEの存在感を北海道全体にアピールできているのではと思います。

2019年１月～12月までで下記のメディアでAMUSEの活動が取り上げられました。

新聞・雑誌

日　付	掲　載　誌	内容（タイトル等）
１月18日	北海道医療新聞	顔- 働き甲斐ある職場に
２月１日	北海道医療新聞	腹腔鏡手術を充実
２月28日	北海道新聞	旭医大８K内視鏡導入
３月20日	読売新聞	病院の実力 ～ 北海道編 202 心臓病治療が広がる選択肢
３月24日	読売新聞	病院の実力 ～ 北海道編 132 「心臓病」
３月27日	北海道新聞	植え込み型補助人工心臓　旭医大 実施施設に
４月	胸部外科　Vol.72　No.4	ドイツ ハノーバー医科大学・ハイデンベルグ大学・イエナ大学・デュッセルドルフ大学（その１）
４月25日	日経産業新聞	がん手術、８Kでアシスト
５月	胸部外科　Vol.72　No.5	ドイツ ハノーバー医科大学・ハイデンベルグ大学・イエナ大学・デュッセルドルフ大学（その２）
５月９日	北海道新聞	旭医大医局法人化から３年
６月	胸部外科　Vol.72　No.6	ドイツ ハノーバー医科大学・ハイデンベルグ大学・ イエナ大学・デュッセルドルフ大学（その３）
７月	日本心臓血管外科雑誌	海外留学体験記 ドイツ留学体験記 －ドイツ・デュッセルドルフ－
８月号	北海道経済	中央精工実用化に向けてラストスパート　移植用臓器灌流装置、来年の医療機器認証を目指す
９月号	OPERA Times ホギメディカル	巻頭特集　医療現場最前線 EMAROと８Kを活用した鏡視下手術の新技術
10月２日	北海道新聞	初の生体腎移植成功
10月２日	讀賣新聞	旭川医大初の生体腎移植
10月２日	朝日新聞	旭川大で初生体腎移植
10月２日	NHK　NEWS　Web	旭川医大病院、初の生体腎移植成功
10月23日	北海道新聞	元アナ小林摩耶さん「今を大切に生きて」
11月21日	VEITH SYMPOSIUM NEWS	Tele,edicine and its role inruptured AAArepair
11月５日	北海道新聞	移植用臓器を長時間保存　旭川医大など装置開発
11月６日	北海道新聞	まるでブラックジャック？中学生が手術模擬体験

テレビ等出演

日付	放送局	番組タイトル	概要
1月20日	BS朝日	命を救う！スゴ腕ドクター	糖尿病による閉塞性動脈硬化症
7月11日	北海道メディカルミュージアム	第73回　もし大腸癌になったら？最新の外科治療を踏まえて	Webサイト「オープンインターネットカレッジ」の「家庭の医学講座」でオンデマンド配信あり
8月31日	NHK	ほっとニュース北海道	震災から一年後の厚真訪問

旭医大 医局法人化から3年

外科志望の研修医増加

幅広い診療分野 魅力伝えやすく

「旭川医大医局法人化から３年」
＊出典　2019年５月９日　北海道新聞＊

「オープンインターネットカレッジ」
＊出典　オープンインターネットカレッジTOPページ＊

初の生体腎移植 成功

旭川医大「脳死下での実施も」

「初の生体腎移植　成功」
＊出典　2019年10月２日　北海道新聞＊

まるでブラック・ジャック？

中学生が手術模擬体験

旭医大病院でセミナー

「まるでブラックジャック？中学生が手術模擬体験」
＊出典　2019年11月６日　北海道新聞＊

AMUSE　初期・後期研修医一覧

2020年２月現在、５年目以下のAMUSE会員36名が道内各所で外科専門医取得を目指し研鑽を積んでいます。AMUSE会員の皆様におきましては若手外科医の指導・サポートで大変お世話になっています。今後も御指導・御支援の程よろしくお願い申し上げます。

年次	氏　名	所　属
１年目	浦　本　孝　幸	沖縄中部徳洲会病院
	伊　佐　秀　貴	八雲総合病院
	氏　家　菜々美	製鉄記念室蘭病院
	島　崎　龍太郎	旭川医科大学
	林　　成　司	旭川厚生病院
	宮　里　実　幸	沖縄中部徳洲会病院
	伊　藤　　茜	公益社団法人北海道勤労者医療協会中央病院
２年目	石　堂　耕　平	旭川医科大学
	成　田　昌　彦	旭川医科大学
	井　原　一　樹	沖縄徳洲会湘南鎌倉総合病院
	片　寄　　駿	札幌東徳洲会病院
	紅　露　大　介	旭川医科大学
３年目	潮　田　亮　平	かわぐち心臓呼吸器病院
	大久保　　諒	釧路孝仁会記念病院
	髙　橋　一　輝	旭川医科大学
	堀　川　大　介	遠軽厚生病院
	柴　垣　圭　佑	国立病院機構帯広病院
	宮　本　寛　之	旭川医科大学
	広　藤　愛　菜	旭川医科大学
４年目	鎌　田　啓　輔	旭川医科大学
	竹　吉　大　輔	神奈川県立こども医療センター
	大　平　成　真	釧路孝仁会記念病院
	山　本　寛　大	遠軽厚生病院
	安　達　雄　輝	富良野協会病院
	森　山　寛　也	札幌厚生病院
	水　上　奨一朗	小林病院
	間　　優　衣	旭川厚生病院
５年目	竜　川　貴　光	旭川医科大学
	武　田　智　宏	旭川厚生病院
	齋　藤　善　也	旭川医科大学
	中　津　知　己	製鉄記念室蘭病院
	安　田　俊　輔	旭川医科大学
	岩　田　浩　義	旭川医科大学
	阿　部　昌　宏	国立病院機構帯広病院
	小　林　大　太	製鉄記念室蘭病院
	國　岡　信　吾	北海道循環器病院

AMUSE　学術外科医表彰プログラム

2018年度よりAMUSE学術表彰プログラムが開始されました。１年間の学術活動（学会発表・論文）を評価する試みです。今年も2019年12月21日に行われたAMUSE感謝の会の中で表彰式が行われました。第２回の受賞者は三宅啓介先生が受賞され、コメントをいただきました。

第２回　AMUSE学術外科医表彰プログラム　実績一覧

	属	入会者名	ふりがな	合計点数	所　属	大学卒業年
１位	第一外科	菊　地　信　介	きくち　しんすけ	824	旭川医科大学	2008
１位	第一外科	三　宅　啓　介	みやけ　けいすけ	623	大阪大学	2009
２位	第一外科	伊　勢　隼　人	いせ　はやと	297	旭川医科大学	2010
３位	第一外科	吉　田　有　里	よしだ　ゆり	248	旭川医科大学	2010
４位	第一外科	石　井　大　介	いしい　だいすけ	200	旭川医科大学	2012
５位	第一外科	奥　田　紘　子	おくだ　ひろこ	139	札幌厚生病院	2005
６位	第一外科	中　西　仙太郎	なかにし　せんたろう	121	旭川医科大学	2008
７位	第一外科	安　田　俊　輔	やすだ　しゅんすけ	121	旭川医科大学	2015
８位	第一外科	筒　井　真　博	つつい　まさひろ	113	札幌ハートセンター 札幌心臓血管外科クリニック	2013
９位	第二外科	大　谷　将　秀	おおたに　まさひで	108	旭川医科大学	2011
10位	第一外科	石　橋　　佳	いしばし　けい	101	旭川医科大学	2009

※菊地信介先生（旭川医科大学）は824点でしたが昨年度、最優秀賞を受賞されたので今年度は三宅啓介先生が受賞という運びになりました。

第２回AMUSE学術外科医表彰プログラム

大阪大学　三　宅　啓　介

この度はこのような栄誉ある賞を受賞させていただき、大変光栄に思うと同時にこれまで学術支援を継続して頂いたAMUSEには大変感謝しております。

私が旭川を離れてから早くも２年程の歳月が流れました。旭川医大に所属し始めた頃の私は、学術的な部分で優れた部分は無く、努力はしていましたが、独学でうまくいかないことが多く、大変苦労していました。旭川を訪れてすぐに意気投合した友人である菊地先生のactivityの高さに衝撃を受けたのをはっきりと覚えています。菊地先生とは学術的な話も沢山し、多くを学びましたし、東先生をはじめとする先生方からは、沢山の指導を受け、あの日々は私にとって大きな財産です。今の私の研究の殆どが、あの頃の雑談や、臨床経験での疑問から生まれており、旭川での日々無くしては今の私はありません。

AMUSEは研究を行う上でも素晴らしい環境であり、若手の先生方には是非今後とも頑張っていただき、AMUSEを更に盛り上げていただけることを願っています。本当にありがとうございました。

AMUSE　第１回　外科学講座合同研究討議会

本年度より各講座でのリサーチ内容を知る目的で、外科学講座合同研究討議会を開催いたしました。「AMUSE感謝の会」当日の午前中に行い、多くの先生方より演題発表をいただきました。一見無縁に思えた各分野のリサーチ内容が実は大きく参考になる内容であり非常に実りのある研究討議会となりました。今後は外科の講座間同士での共同研究などに発展してくれることを期待します。下記はそのプログラムです。

AMUSE　第１回　外科学講座合同研究討議会

2019年12月21日　土曜日
臨床第一講義室　10：00－12：00

１．東理事による開会挨拶

２．第１部（座長：石橋　　佳 先生）
10：05－10：15　　北田　正博 先生（呼吸器・乳腺外科）
5ALAと自家蛍光を併用した胸膜播種病変に対する光学的診断法の開発
10：16－10：26　　庄中　達也 先生（消化管外科）
消化管外科学講座の研究進捗状況
10：27－10：37　　宮城　久之 先生（小児外科）
組織立体再構築を用いた直腸肛門奇形発生のエピゲノム解析
10：38－10：48　　竜川　貴光 先生（血管外科）
末梢組織での神経血管ワイヤリングにおける周皮細胞の役割に関する研究
10：49－10：59　　庄中　達也 先生（移植医工学治療開発講座）
肝移植モデルを用いた人工赤血球を用いた機械灌流保存の有効性

11：00－11：05　コーヒーブレイク

３．第２部（座長：庄中　達也 先生）
11：05－11：15　　若林　尚宏 先生（心臓外科）
ラット移植モデルにおける小口径PCLグラフトの短期開存性と羊膜上清コーティングによる影響
11：16－11：26　　石井　大介 先生（小児外科/移植医工学治療開発講座）
マージナルドナー（過小肝グラフト）における機械灌流保存の有効性の検討
11：27－11：40　　松野　直徒 先生（移植医工学治療開発講座）
我が国初の国産移植用臓器灌流保存システムによる多施設臨床共同研究への道
11：41－11：54　　東　　信良 先生（血管外科）
臨床研究現状報告

４．講　評（角教授、紙谷教授）

５．閉　会

医 学 生 発 表

AMUSEでは研修医のみならず医学生への指導を行っています。特に外科に興味のある学生は学会発表を経験していただいております。最近は外科系の学会の地方会に「学生セッション」が設けられており、白熱した議論が行われております。指導医の指導も素晴らしく、医学生の発表のみならず質問への受け答えも堂々としております。

今年度AMUSEの援助で医学生が学会発表したのは下記のとおりです。そのなかで２名の学生と各指導医の先生に感想をいただきました。

2020年度　医学生学会発表リスト　※一部抜粋（AMUSEより旅費を助成）

学年	氏　名	学会名	日　付	場所	演題名	
6	廣　上　　翔	第３回HOPES 学生セッション	９月21日	札幌	超高齢者再発性僧帽弁閉鎖不全症に対してCentral edge to edgeを施行した１例	最優秀賞
6	村　上　　遥	第３回HOPES 一般演題　心２	９月22日	札幌	超高齢者において先天性冠状動脈肺動脈瘻破裂により心タンポナーデを来した一例	
6	長　安　　健	第56回日本小児外科学会学術集会	５月 23～25日	久留米	胎児期に腎腫瘍を指摘された先天性間葉芽腎腫の２例	
5	香　川　倖　二	第3回HOPES 学生セッション	９月21日	札幌	血管内治療と末梢バイパス術を段階的に施行し救肢し得た足趾潰瘍症例	
5	齋　木　俊一郎	第３回HOPES 学生セッション	９月21日	札幌	急性虫垂炎で偶然発見された肝単包虫症の治療経験	
5	小　池　悠　希	第３回HOPES 学生セッション	９月21日	札幌	子宮に浸潤穿通したＳ状結腸内分泌癌の１例	
5	楫　取　成　仁	第３回HOPES 学生セッション	９月21日	札幌	月経随伴性気胸と鑑別を要したInflammatory myofibroblastic tumor類縁疾患の１例	
5	加　賀　飛雄馬	第３回HOPES 学生セッション	９月21日	札幌	T4N0浸潤性粘液肺腺癌の切除例	
5	平　田　朋　浩	第101回日本小児外科学会北海道地方会	９月22日	札幌	胎児期に尿管瘤が疑われたが出生後に重複腸管と診断し腹腔鏡補助下小腸部分切除を施行した１例	
5	元　木　恵　太	第101回日本小児外科学会北海道地方会	９月22日	札幌	ヘルニア嚢壁内に異所性肝を認めた先天性右横隔膜ヘルニアの１例	
5	元　木　恵　太	第30回日本小児呼吸器外科研究会	10月19日	大阪	ヘルニア嚢壁内に異所性肝を認めた遅発性先天性右横隔膜ヘルニアの１例	
5	氏　家　珠々美	第３回HOPES 学生セッション	９月21日	札幌	予後不良の経過をたどったHER2type男性乳癌の１例	

第３回HOPES学生セッション
2019年９月21日
急性虫垂炎で偶然発見された肝単包虫症の治療経験

HOPESでの発表を通して

５年生　齋木　俊一郎

HOPESにおいて日本では珍しい単包虫症について発表させていただきました。滅多に出会わない症例を治療しなければならないことは医師として必ず訪れると思います。そのような時、質の高い治療を行うために先生方がどのように治療方針を決定しているのかを学ぶことができました。

発表に当たり過去の症例報告や昭和初期の文献にまで遡りました。先人たちの絶え間ない積み重ねが今の医療を作っており、自分も今後その一員としていかに貢献していくか考えるきっかけとなりました。

お忙しいにもかかわらず嫌な顔ひとつせず指導してくださった高橋先生、また連日発表練習に付き合ってくださった外科学講座の先生方、本当にありがとうございました。

学生指導を終えて

旭川医科大学　肝胆膵・移植外科　髙橋　裕之

このたび、HOPES2019において５年生の齋木俊一郎君に「肝単包虫症」について症例報告して頂きました。毎日遅くまで勉強し、堂々と素晴らしい発表をしている姿を見せて頂きました。

齋木君は将来外科志望とのことです。今回の経験が少しでも今後の外科人生における糧となれば、うれしく思います。

最後になりますが、連日遅くまで発表の指導に付き合って頂きました諸先輩方に深く感謝致します。

第３回HOPES学生セッション
2019年９月21日
超高齢者再発性僧帽弁閉鎖不全症に対してCentral edge to edgeを施行した１例

外科医になる準備にもなりました

６年生　廣上　　翔

昨年度の一般演題での発表に続き、今年度は満を持しての学生セッション挑戦でした。光栄にも最優秀賞を頂くことができましたが、当初は全く筆が進まず苦戦しておりました。

悩みの種は、edge to edgeは決して新しい手法ではないということ。そして、それもとに考案された内科的治療デバイスが盛り上がりつつある中で、外科的なedge to edgeをどう提起したらよいのかということでした。

最終的には、新旧の論文はもちろん、関連分野の勉強会で得た最新の知見や、周囲の循環器内科医の見解も参考に、どうにか「次善の策としての可能性」を提起できたように思います。最後まで様々なアドバイスを下さいました中西先生、紙谷先生はじめAMUSEの先生方には深く感謝致します。

思い返せば一連の過程は、低侵襲ないし内科的治療に向かう昨今の流れの中での、外科の存在意義の確認にも繋がるものであり、外科医を目指すにあたって素晴らしい心の準備の機会を得たように思われます。ありがとうございました。

AMUSE学生発表指導担当して

旭川医科大学　心臓外科　中西　仙太郎

第３回AMUSE学生発表指導を昨年に引き続き担当させていただきました。今年は昨年一般演題として発表をしてくれた廣上くん、昨年の経験を生かして堂々した発表で、最優秀賞をいただくことができました。あれもこれも全て私の指導の賜物で。。。と言いたいところですが、実は私は何もしておりません。スライドも１から自分で作成し、考察も原稿も全て自分で考え、時間内にピタッと収めておりました。基本的なスペックが高い

学生ではあるのですが、一番私がすごいと思ったのはプレゼンテーション能力の高さです。自分が考えたことをしっかりと相手に伝えるということに関して、内容ももちろん素晴らしいのですがスライドの色調・間隔・行間・構成、話すスピード・トーン・雰囲気、全てにおいて正直私より上でしょう。私がしたことと言ったら方向性を相談したことと、質疑応答を考えたのと、資料を多少渡したくらいです。何度も見直しはしましたが、修正点を与えると修正点にプラスαされてグレードアップされたスライドが返ってきます。将来は心臓外科として頑張ってくれる予定でもあり、非常に楽しみな逸材であります。

法 人 会 員 紹 介

JA北海道厚生連 札幌厚生病院

JA北海道厚生連　札幌厚生病院
副院長　内　田　　恒

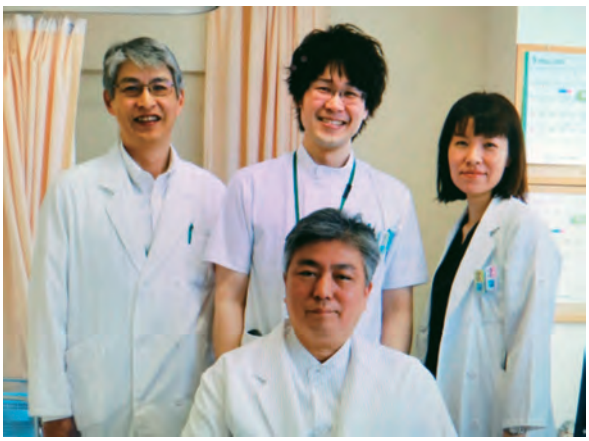
１．札幌厚生病院の特徴

最近の苗穂地区再開発により近隣ではタワーマンション建設が進んでいます。札幌ファクトリーも近くアーバンライフを望む人には快適な環境ですが、当院の理念は、“最も信頼され選ばれる病院を目指す”であり、札幌の厳しい医療環境の中で生き抜くために専門性の高い優れた治療成績、実績が求められています。良い意味の緊張感があり臨床研修医からの人気は高く活気があります。病床数519床、標榜科25科、日本外科学会外科専門医制度修練施設、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構関連病院、日本脈管学会認定研修指定病院、基幹型臨床研修病院、地域がん診療連携拠点病院など、充実した臨床研修が可能です。

２．札幌厚生病院　心臓血管外科

2005年に光部先生が１人で赴任して以来、旧第一外科血管外科の先生方が築き上げてきた当科ですが、2019年４月より心臓血管外科スタッフは１人増え、吉田博希、内田恒、奥田紘子、森山寛也（卒後４年目後期研修医）４名態勢となりました。外来は、血管外科　月、火、木の午前に加えて、金の午後は明神先生（北大第二外科　元同門会長）、心臓大血管外科外来を毎月第２水曜日午前　紙谷先生（旭川医科大学心臓大血管外科学分野教授）にお越し頂き、血管疾患、心臓大血管疾患全般をカバーする充実した布陣を擁しています。

平成30年度の手術数は157例（ほぼ全例全麻症例：血管内治療は別に50例）でした。当科の専門分野は閉塞性動脈硬化症（ASO）に対する血行再建術で、血管内治療（EVT）やバイパスでの治療が不可能と判断された困難症例が他院より多く紹介されてきます。症例ごとに悩みながらもほぼ目標を達成し得ることで関連病院からの信用を得られていると自負しています。また、全身動脈硬化症を背景に持ったハイリスク患者の管理には、病棟看護スタッフをはじめ、透析、リハビリ、栄養管理、地域連携部門などチーム医療体制の整備が必須ですが、とても良い雰囲気でチーム医療が形成されています。大動脈瘤に対する手術は、ステントグラフトによる低侵襲治療割合が増加していますが、ステントグラフト全機種使用可能な資格を有し、各症例に最適と思われる治療法を選択し合併症なく確実・安全に手術を遂行できるようチーム力を高めています。また当院は札幌随一の消化器疾患症例数を有し、肝臓外科、膵臓外科手術時の内臓動脈再建や静脈再建、癌関連静脈血栓塞栓症（VTE）に関する院内紹介が多いことも特徴です。スタッフ１人増に見合う院内貢献を果たすべく、フットワーク良く各科の相談に対応しています。研究分野においても昨年は奥田医師が、“ASO、AAA手術成績にフレイルはどう影響するか？”について当院データを纏めヨーロッパ血管外科学会（ESVS）で口演発表し、森山医師も２回の地方会発表を行ないました。院内スタッフ、患者に育てて頂きながら、“札幌で血管疾患なら札幌厚生病院へ紹介しよう“と言って頂ける、信用される診療科になれるよう努力しています。



前列　吉田博希先生、後列　右から奥田紘子先生、森山寛也先生、内田恒先生

社会福祉法人北海道社会事業協会
富良野病院

社会福祉法人北海道社会事業協会　富良野病院

診療部長　外科主任部長
藤　原　康　博

皆様こん○○は。

富良野協会病院（略称）外科のボス（通称）、1991年卒（旭川医科大学13期卒）の藤原です。

庄中先生に突っつかれて、当医療圏でCOVID-19発覚翌日にに執筆していますので乱文失礼いたします。

富良野市をご存知ない方はいないとは思いますがWikiなどの情報によると、上川総合振興局に属する人口21,593人（2019.12.31現在）の道内全市町村31位、市では下から９位のちっちゃな市です。北海道の真ん中（緯度中心）ということでへその町を謳っています。ちなみに北海道の重心は新得町の上富良野よりの山中だそうです。

真ん中だけに富良野駅から車で旭川駅まで57km、旭川空港は43km、札幌駅は114km、千歳空港85kmと要所へのアクセスは微妙に良好です。

当院は地上８階建、一般病床195床、療養56床、感染4床の計255床と中規模施設で、常勤医も20名前後で地方の中核病院としても力量不足は否めませんが、富良野医療圏の地域センター病院であり災害指定病院、2次救急医療病院、地域周産期母子医療センター、僻地医療拠点病院などの指定も受けています。職員駐車場兼のヘリポートもあり道北ドクターヘリとのコンタクトは旭川市外では最も多い病院の一つです。

2020.2.22現在の外科メンバーは以下の通りです。

主任部長　藤原　康博
　1991年旭川医科大学卒
　診療部長、手術室長、医療安全管理室室長、医局長、忘年会実行委員長
　日本DMAT隊員、富良野市災害医療コーディネーター、富良野警察署警察医、富良野医師会理事、等々
　スターウォーズとラーメンのヲタク。プラモデラー。
　愛車はR34GT-R（現在レストア入院中）…

部長　渡邉　賢二
　2004年旭川医科大学卒
　化学療法委員会委員長、ICTメンバー

安達　雄輝
　2016年旭川医科大学卒

火曜、木曜の定期手術日には大学から萩原、宮本先生に出張して頂いて藤原は急外＆病棟呼び出し担当していることがほとんどです。

全身麻酔下の手術は120件／年くらいで高度進行癌もまだまだ多いので鏡視下手術は半分強です。

私はあ～だこ～だと１から10まで細かく指導するのは嫌いです。若い先生にはちょっと無理かもな症例もどんどん経験してもらって自分の現状での実力を客観的に自覚し、自分で克服すべき課題を見つけて自ら考える、反省する、次回考慮し工夫するような習慣を付けてくれたらなぁ～って思っています。

上司なんて者は部下が何かやらかした時に責任取ってやりゃいいだけの存在になるのが理想だなぁ？

あっ野放しにするとは言ってないのでそこんとこヨロシク！！！

観光客多すぎていやになることもしばしばありますが、豊かな自然と美味しい食材、ワールドカップクラスのスキー場が10数分で行けるなど色々な魅力のある町で働きたい方は是非御連絡下さいませ。

2019年度　AMUSE新入会員一覧

AMUSEはこの１年間（2019年１月～12月）に10名の新規会員を迎え入れました。
みなさんが各所で活躍しています。新入会員は下記のようになっています。
今後共よろしくお願い申し上げます。

※入会順・敬称略

入会者名	所　　属	大学卒業年
横　尾　英　樹	旭川医科大学	1992
広　藤　愛　菜	旭川医科大学	2017
伊　佐　秀　貴	八雲総合病院	2019
氏　家　菜々美	社会医療法人　製鉄記念室蘭病院	2019
伊　藤　　茜	公益社団法人　北海道勤労者医療協会　勤医協札幌病院	2019
浦　本　孝　幸	医療法人沖縄徳洲会　中部徳洲会病院	2019
宮　里　実　幸	医療法人沖縄徳洲会　中部徳洲会病院	2019
島　崎　龍太郎	旭川医科大学	2019
林　　成　司	ＪＡ北海道厚生連旭川厚生病院	2019
紅　露　大　介	旭川医科大学	2018

旭川医科大学　肝胆膵・移植外科　准教授
横　尾　英　樹

この度、旭川医科大学肝胆膵・移植外科に赴任してきました横尾英樹と申します。

昨年、AMUSEの会員に加えさせていただきました。改めてご挨拶申し上げます。

私は1992年に北海道大学を卒業し、その後北大第一外科に入局、市立美唄病院、網走厚生病院、深川市立病院、旭川厚生病院で一般消化器外科医として研鑽を積んだ後、東京の国立がんセンター研究所（現、国立がん研究センター）病理部で肝癌の研究をする機会をいただいたことが肝胆膵外科を専門にするきっかけとなりました。病理部ではNF－kBの活性化と肝細胞癌の悪性度が関連していることを見いだしその分子機構を解明しようとしていた矢先、病理部の部長であられた坂元亨宇先生が慶應義塾大学の教授になられため腫瘍プロテオミクスに異動となりました。プロテオミクス部門では肝細胞癌の細胞株や臨床検体を蛍光二次元電気泳動法でタンパク質の網羅的解析を行い数種類の肝癌の悪性度に関わる分子を同定しました。

北大には2005年に肝胆膵グループに配属となり気がついてみると14年もの間、肝臓外科医として

頑張って参りました。臨床のみならず、研究面においてもがんセンター時代に同定した分子の機能解析をさらに進め、大学院生の指導にも当たって参りました。外科は手術手技ばかり目が行きがちで技術の習得を最終目標にする場合が多いですが決してそうではありません。大学はacademic surgeonが求められるわけですから、外科の立場から「病気を治す」ことが最終目標でなければなりません。そういう意味では外科手術手技の習得や技術開発はもちろんのこと分子生物学などの基礎的な面も大学院生の時代にトレーニングされなければならず、その指導ができる体制を整える必要があります。旭川医大では外科教室だからこそ出来るような肝胆膵癌のバイオマーカーや新規集学的治療の開発に努めて参ります。

AMUSEは旭川医科大学の外科講座が一体となった全国的に見ても珍しい組織です。学生側からみると卒後に血管外科、心臓外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科のサブスペシャリティを決定する猶予ができ、また変更することも可能な魅力あるシステムだと考えております。私も肝胆膵・移植外科学に少しでも興味をもってもらえるよう頑張っていくつもりです。

４月から約１年が経過し、ようやく慣れてきた感がありますが、肝胆膵・移植外科には少人数ながら新進気鋭のスタッフ達がおりますので、大学の柱である臨床・教育・研究をさらに発展させるべく尽力していきたいと考えております。

今後、AMUSEの先生方のご協力、ご助言もいただくことがあろうかと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

旭川厚生病院（１年目）

林　　成　司

初めまして、旭川厚生病院で１年目初期臨床研修医として研修させていただいております林成司（じょうじ）と申します。学士編入で入学し、今年で30歳となりました。医学生のころは一般生に混ざりラグビー部の活動をしておりましたが、将来の診療科を考え始めた６年生のころは体力面が心配なため、外科医に憧れはありましたが実際に目指そうとは思っておりませんでした。しかし、内科医では決して取り扱うことのできない領域であること、ダイナミックな手技で治療すること、何よりそこで働かれている外科の先生方の熱い眼差しを目の当たりにし、一度しかない人生で選択せず後悔はしたくないと思い腹部外科医を目指すことに決めました。研修では様々な診療科の先生にご指導していただきながら日々研修に取り組んでおります。まだまだ未熟でご迷惑をおかけすることも多々あるかとは思いますが、是非とも熱いご指導よろしくお願いいたします。

旭川医科大学（１年目）

島　崎　龍太郎

旭川医科大学臨床研修医１年、島崎龍太郎と申します。2014年アイルランド国立Trinity College Dublin医学部を卒業しました。

幼少期より途上国で働く医師と出会う機会に恵まれ国際医療協力に携わりたいと思い医師を志しました。大学卒業後はアイルランドで初期研修を予定していましたが、アイルランドの財政破綻によりEU圏外出身者の初期研修採用の道が閉ざされたため、帰国し医師国家試験予備試験を受験、同試験合格後の2018年に臨床実地修練受入れ先の大学病院探しで難渋していた際、縁あって古川教授に旭川医科大学での修練を御紹介頂きました。古川教授は研修医のとき“切れる内科医になりたい”と外科医の道に入られたそうです。私も同じように“内科管理のできる一般外科医になりたい”と考えAmuseに入局致しました。

諸先輩方には今後大変お世話になると思います、何卒ご指導よろしくお願い致します。

旭川医科大学（３年目）

広　藤　愛　菜

今年４月から旭川医科大学心臓大血管外科に入局致しました、広藤愛菜と申します。出身は、漫才芸人フットボールアワーの後藤輝基と同じ、大阪市淡路です。小学校入学直前に父がアメリカ・ケインブリッジで留学することが決まり、母と私も一緒にアメリカへ渡りました。小学校、中学校、(高校生の間は大阪に戻り)大学生活をアメリカで過ごし、日本に帰国後は福岡県の英会話教室で教師を務めておりました。英会話教室で出会った生徒の中には自衛隊隊員や研究者、医者も沢山いらっしゃいました。色々な職種の生徒と話しているうちに自分が医者になることを志すようになっていました。当時実家が福岡県にあったこともあり、県内の医学部に通い、初期研修は大阪市立大学附属病院のたすき掛けプログラムで姫路市と大阪市（地域医療は北海道帯広市）で研修しました。

地域医療で北海道に１ヶ月滞在した際、アウトドアが楽しめて食事もおいしい、住んでいたアメリカ・ニューイングランド地区に似た北海道を後期研修先として魅力を感じていたところ、旭川医科大学心臓外科の紙谷教授と出会い、教授の元心臓血管外科医として成長したいと志願し旭川医科大学に入局することを決めました。４月から旭川医科大学病院で後期研修をさせて頂きながら、紙谷教授や東教授をはじめ、心臓大血管外科と血管外科の先生方の厳しくも温かい(ほとんど温かい)ご指導のもと最高の後期研修をさせて頂いていると日々実感しております。アウトドアを楽しむ暇は正直なかなかありませんが、先生方に美味しいご飯を沢山ご馳走になったり、遠方各地への当直へいったり、北海道を満喫しています。これからもっと北海道に貢献できる外科医を目指していきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

八雲総合病院（１年目）

伊　佐　秀　貴

立春の候、先生方におかれましては、日々の診療にご多忙のことと存じます。私、研修医１年目の伊佐　秀貴と申します。よろしくお願い申し上げます。新入会員として僭越ながらご挨拶申し上げます。

私は高校時代から心臓外科に興味を抱き、旭川医大に41期生として入学いたしました。学生時代は剣道部に所属し、部活や友人との思い出作りに明け暮れる毎日でした。そんな中、５年生の学生時代の実習で心臓外科をローテートした際、先生方の昼夜を問わず患者さんに向き合う姿勢や手術の魅力に触れ、進路を決定いたしました。その後も、AMUSEの先生方や秘書の皆様には大変お世話になり、無事卒業、国試合格をさせていただきました。

現在は道南の八雲で研修しており、４月からは大学での研修が始まります。未熟者ながら精一杯務める所存ですので、何卒ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

勤医協中央病院（１年目）

伊　藤　　茜

初めまして、札幌の病院で研修医１年目をしております伊藤茜です。４月から慣れ親しんだ札幌で内科や救急を中心に研修させていただき、とても充実した日々を過ごしております。当直や救急研修は骨の髄まで疲れ果てる時もありますが、そのおかげで学生時代よりもフットワーク軽く、勉強会や飲み会に参加することで、人脈を広げ、学びを深めることができています。この経験と起動力を２年間の研修で研きをかけ、旭川で発揮できたらと思っております。早いもので研修もあと１年ですが、医師としての基盤を固めることができるよう精進して参ります。

（写真は職場の先輩とオーストラリアへ旅行した時の写真です。）

製鉄記念室蘭病院（１年目）

氏　家　菜々美

研修医１年目の氏家菜々美です。現在は製鉄記念室蘭病院で道内の三大学から集まった沢山の同僚と日々学び合い充実した研修生活を送っています。２か月の外科研修を経て改めて外科医としての厳しさ、面白さに触れ、より一層将来のビジョンを思い描くことが出来るようになりました。

また今年度は病院の内外で様々なことを経験出来ましたが、特に母校の高校で講演する機会を頂いたことが印象的です。医師を目指す高校生たちに受験や大学生活、医師としての学びや心構えをお話ししたことで自分自身も気持ちを新たにすることが出来ました。

今後も初心を忘れず医師として成長出来るよう研鑽を積んでいきたいと考えています。

沖縄中部徳洲会病院（１年目）

浦　本　孝　幸

AMUSEの皆様、ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。

中部徳洲会病院で研修しております浦本と申します。AMUSEの皆様には学生のころから大変お世話になってお

り、学会の発表を経験させていただいたり、忘年会に参加させていただいたりさせていただきました。研修に入ってからは沖縄に住んでいることもありなかなか御恩をお返しする機会がなく申し訳なく思っております。研修２年間は道外の医療を見てみたいということとできるだけいろいろな手技ができそうな研修先として沖縄県の中部徳洲会病院を選びました。最初は慣れない文化の中で戸惑うことも多くありましたが、大学から同期で入職した宮里くんのおかげで楽しく過ごすことができました。上半期は当直や業務になれることでいっぱいいっぱいであり、どんな医療をしているのか自分でも半分わからないままひたすらこなしていました。それに慣れてくると疑問を持ち始め、調べたり上級医の先生に相談したりだんだんと自分の中で徐々にではありますが患者さんの背景にあるものと現在の疾患について結びつくことができ、治療もそれに合わせて選択できるようになってきたように思います。とはいえまだまだ未熟で知らないことのほうが圧倒的に多いですがもう数か月で２年目になるということは紛れもない事実。研修病院にありがちである１年目は２年目がしっかりみなければいけないという風習の下であるのでより一層自己研鑽に励まなければいけないと思っております。外科志望を伝えていることもあり、上級医の先生からもたくさんの経験をさせていただいております。腹腔鏡の手術で実際に執刀させていただいたり、沖縄県外科会でスライド発表の支援をしていただいたりしました。やってみて思うのはやっぱり外科は楽しいということです。

今は２年目のローテーションを話し合っている段階です。若い分、まだまだ失敗も経験になります。３年目以降の「自分のやりたいこと」に向けて今できる経験を十分に吸収できるよう組もうと思います。地元に戻った時に貢献できるよう頑張ろうと思います。

沖縄中部徳洲会病院（１年目）

宮　里　実　幸

はじめまして、旭川医科大学41期卒、沖縄にある中部徳洲会病院で初期研修をしております、宮里実幸と申します。

手術をすることで病変を取り除き、根治することができる、外科手術を行うことで、苦しみを消し去ることができる。そのような外科の素晴らしさに憧れて、AMUSEに入会させて頂きました。今はまだ初期研修医であり、自分が出来ることは限られています。しかし、手術だけでなく、術前の準備や術後管理など、日々勉強することは多く、毎日楽しい研修を過ごさせて頂いています。また、今の病院では、当直中に自分が診察した患者さんが緊急手術になることも多く、その手術に入らせて頂いたりと、貴重な経験もさせてもらっています。これからも日々研鑽し、早く一人前の外科医になれるように頑張りたいと思います。これからよろしくお願いいたします。

謝　　辞

AMUSE年報第４号を発刊するにあたり、格別なご支援を賜りました企業様に厚く御礼申し上げます。

旭川医科大学外科学講座教育支援機構
一般社団法人　AMUSE
代表理事　古　川　博　之

【広告掲載企業】
旭化成ファーマ株式会社
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
大鵬薬品工業株式会社

（五十音順　敬称略）　2019年1月31日現在

Creating for Tomorrow

昨日まで世界になかったものを。

私たち旭化成グループの使命。
それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、
より豊かな“くらし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。
創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、次の時代へ大胆に応えていくために―。
私たちは、“昨日まで世界になかったものを”創造し続けます。

AsahiKASEI

旭化成ファーマ株式会社
URL:http://www.asahikasei-pharma.co.jp

ETHICON
PART OF THE Johnson & Johnson FAMILY OF COMPANIES

INTERCEED®
Absorbable Adhesion Barrier

酸化再生セルロース・合成吸収性癒着防止材

製造販売元：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカル カンパニー　〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号　TEL (03) 4411-7902
高度管理医療機器　販売名：インターシード　承認番号:20300BZY01058000

ETHB0187-01-201501
©J&JKK 2013-2015

私たちは人びとの健康を高め
満ち足りた笑顔あふれる 社会づくりに貢献します。

TAIHO 大鵬薬品工業株式会社
TAIHO PHARMACEUTICAL CO., LTD.
https://www.taiho.co.jp